

2018年6月20日
交通経済研究所
「運輸と経済」編集室

「運輸と経済」2018年6月号のお詫びと訂正

「運輸と経済」2018年6月号（通巻第852号）に以下の通り誤りがありました。

該当箇所：97ページ 図2

※誤って図3と同じ図を掲載しております。

読者ならびに関係者の皆様には、ご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び致します。
なお、既に2018年6月号をお買い求め頂いている方には、以下の通り対応させていただきます。

定期購読でご購入いただいている方

2018年7月号をお送り際に、訂正用のシールを同封致します。お手数ですが、該当箇所に貼り付けて頂きますようお願い申し上げます。

その他の方

交通経済研究所「運輸と経済」ホームページ (<https://trec.itej.or.jp>) に該当箇所を訂正したPDFファイルを掲載致しますので、ダウンロードしてご活用下さい。また、希望される方には、訂正用のシールを郵便にてお送り致します。ご希望の方は、お手数ですが交通経済研究所「運輸と経済」編集室までお電話下さい。

本件に関する問い合わせ先

交通経済研究所

「運輸と経済」編集室

電話：03-5363-3102

（月～金 9:30～18:00 祝日除く）

図1 国際線シート



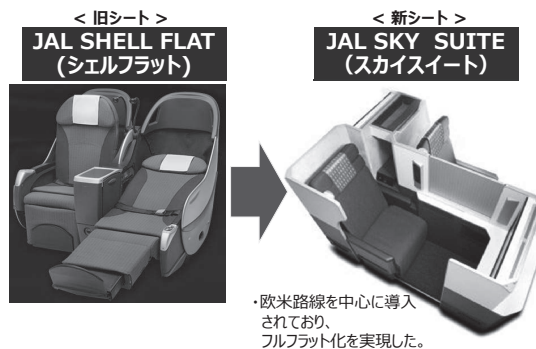
出典：JAL 資料

年4月。翌年の2011年1月には開発が開始され、2013年1月9日の成田～ロンドン線の就航に至るまでには約3年の月日がかかった。お客さまに「常に新鮮な感動」をお届けしたいとの思いをこめて、「Welcome! New Sky」というアクションスローガンのもと、今までにない「新しい空」を作るプロジェクトを立ち上げた。

同プロジェクトで生まれた国際線新シートのコンセプトは「ひとクラス上の最高品質」。各クラスのシートを個性的に、「お客さまが常に新鮮な感動を得られるような最高のサービスの提供」を目指し、新生JALを伝えられる機内を作り上げてきた。かねてより実現を望んでいた全席通路のアクセスを可能にする「ビジネスクラスのフルフラット化」(図1, 2, 5, 6, 7)や、エコノミークラスには標準的な座席配置よりスペースにゆとりをもち、足元の広さを充実させた「新・間隔エコノミー」(図1, 12, 13, 14)といった新しいシートを提供している。

一方、国内線では、2014年5月から全プロダクトを一新した「JAL SKY NEXT」(図15)の導入が開始されている。国内線シートのテーマは「ひとつ先のスタンダード」。高品質な本革の座席による居住性や快適性を高め、LED照明の採用により、フライト中の時間や季節に応じた照明環

図2 国際線ビジネスクラスシートの比較



出典：JAL 資料

境を演出し、「くつろぎ」と「日本らしさ」を十分に提供している。

次項では、国際線、国内線のシートをそれぞれ紹介しながら、当社の機内デザインのこだわりを詳しく述べていくこととしたい。

2. 国際線の機内デザイン

—JAL ブランドが伝わる機内に—

元来航空機のシートは、メーカーがデザインしたものを航空会社ごとに布地を変える程度であったが、2000年前後からインダストリアルデザイナーが座席のデザイン段階から参加するケースが出てきたことにより、機内空間のデザインは大きな変化を遂げてきている。

当社の新シートと機内インテリアのデザインを手がけたのは、日本のインダストリアルデザインの第一人者といわれている、株式会社GKインダストリアルデザインである。同社と当社の共同作業が開始したのは、当時のビジネスクラス「JAL SHELL FLAT SEAT」(図2)の開発途中であり、その後、納得いくまで試行錯誤を繰り返して完成したシートが「JAL SKY SUITE」である。

従来の機内シートと異なるのは、全クラスの「一体感」といえる。新シートにおいては、ファー